

宅地の排水方向を(→)で記入すること。

開発事業で整備する排水施設を表示した計画図を作成すること。
建築時に整備する排水施設があり、本事業では素掘水路等の仮排水工で対応する場合には、それらの仮排水工の計画を含めて表示すること。
調整池は開発事業で整備する必要があるので留意すること。
建築時に整備する排水施設によって、開発事業完了時から排水の放流先が変わる場合には、建築完了時の雨水排水計画図も添付すること。(水理計算書も添付すること。)

排水施設のタイプ、勾配、延長、流向を表示すること。

凡例を設けて排水施設(側溝、集水樹、横断管、調整池等)別に着色すること。

水理計算書で算出した計画高水流量及び計画排水量を表示すること。

断面線を表示すること。

各図面共通事項

- 方位、縮尺を表示すること。
- 区域界を明確に(実線で太く)表示すること。(開発区域(赤線)、関連区域(緑線)、造成協力地(任意色線))
- 図面名、図番、作成日、作成者等を記入すること。
- 各種平面図において、現況道路名、有効道路幅員、河川名、区域内外の現況地盤高等を表示すること。また、山林や丘陵地などの傾斜地の場合は、2m毎の等高線を表示すること。
- 現況平面図以外の各種平面図について、周辺住宅の所有者名等の個人情報は表示しないこと。
- 琵琶湖付近の場合は、宅地の高さをTP+85.871m(TP+84.371+1.5m)以上で計画すること。
- できるだけTP表示で作図すること。

凡	例
	開発区域線
	開発区域線
	境界線
	造成協力地
	法面(1:1)
	砂防ダム
	U型水路
	勾配可変側溝
	U型側溝
	横断管
	集水樹
	水路番号
	集水区域番号
	調整池

事業名	〇〇〇〇事業
事業場所	大津市〇〇〇一丁目
事業者	〇〇株式会社
設計者	〇〇株式会社 大津 太郎
製図年月日	令和〇年〇月〇日 縮尺 1/300
図面名	雨水排水計画平面図
図番	5